

平成30年度前橋高等学校海外研修事業の成果と課題及び帰国後の活動について

前橋高等学校海外研修委員会

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| ○ 期 日 | 平成30年7月27日 ～ 8月16日の21日間 |
| ○ 参加者 | 生徒10名（女子7名・男子3名）引率教諭 1名 11名 |
| ○ 場 所 | オーストラリア クイーンズランド州 ブリスベン近郊 マランビンビー高校 |

1. 成果について

①高校生との交流の充実

受け入れ校であるマランビンビー高校は、数年前からアジアの国々からの海外研修の受け入れを始めたらしいが、自主的にというよりは、教育訓練省の要請に基づき受け入れをしているようだった。

バディに関しては、10人全員が立候補をしてくれたようで、年齢も要望どおり本校生徒とほぼ同年齢（中3～高2）であった為、意思疎通に苦労している本校生徒に対して忍耐強く接してくれ、現地校生徒との交流は充実したものとなった。

②授業研修の充実

現地校での授業や、ワークショップ（体験学習を重視した主に芸術系の授業）による文化体験など、かなり多くの時間を現地校の授業に充てることができた。又年齢がほぼ同じバディが大半だったことから、高校の授業を多く体験することができ、生徒からは、日本人だから違うことをやらされることがなく、普通の高校の授業を体験する事ができ大変良かったと述べている。ワークショップでは、先住民の伝統的な文化である「アボリジナル・アート」を体験することができ、校舎の壁面に色を塗る作業など、オーストラリアの文化に触れる貴重な時間を過ごす事ができた。

③スポーツ交流の充実

日本語クラスがないためスポーツを通しての交流となった。今年は、男子生徒の参加が3名とこれまで最も多く、又全員が運動部に所属していたことから、男子生徒を中心に、伝統的なスポーツである「ローン・ボール」を体験することができた。他にもフットサルやバスケットなど、スポーツを通じて現地校生徒との友好関係や絆を深める事ができたようである。



④「自然・文化体験」および「施設訪問」の充実

例年「大学訪問」以外の活動には、あまり時間をかけなかったが、今年は毎週火曜日を校外学習の日にしたことから十分な時間が取れた。「自然・文化体験」では、オーストラリア最東端の岬である「バイロンベイ」を訪問し広大な自然を満喫することができた。「施設訪問」では、カランビン動物園を見学、オーストラリア固有の動物について知識を深めることができ、又「大学訪問」では、ゴールドコーストにある、世界的に教育レベルの高い名門大学である「ボンド大学」を見学、オーストラリアの文化について講義を受けることができた。生徒たちは、オーストラリアの広大な自然や文化など体験することができ、広く知見を高めることができた。

2 生徒の変容に関すること

生徒からの研修に参加した感想を、いくつか紹介すると、

- 1) 研修生全員が今まで以上に英語の学習を頑張ろうと思うようになった。
- 2) 英語を必要とする仕事に興味を持ち、語学系の大学学部への進学を考え始めた生徒が3人おり、進路意識の高まりが感じられる。
- 3) 対人関係に消極的な生徒も数名参加していたが、ホームステイや学校での研修を通して、より積極的に他人と関わるできるようになった。

などの意見があり、総合的に考えて「研修に参加してよかった」と回答があり、研修を通して様々な面で変容があったようである。

3 課題について

① 英語 (ESL) の授業に関して

英語の授業はわずか4時間と、これまでの研修の中で最も少なかった。授業の回数が少ないだけでなく、授業の担当も毎回変わったため、内容に一貫性が見られなかった。受け入れ校の事情によるものなので仕方がないが残念であった。

② ホームステイについて

一人でホームステイが出来たのはわずか2人とこれまでで最も少なくなった。ホームステイ手配業者を利用して学校で募集をしなかった為、ホストファミリーにマランビンビー高校の生徒が一人も含まれていなかったのが残念であった。しかしホストファミリーの質的には温かみのある家庭が多く、概ね好評であった。



4 帰国後の活動

(1) 海外研修校内報告会

10月4日(木) 7限 15:30~16:20

(2) 「まえばし学校フェスタ」でのステージおよび展示発表

11月17日(土)・18日(日)

場所: 前橋プラザ元気21